

2つの固体ロケットエンジン研究院

1. 似ているのは表面だけではない

中国航天科技集团公司（CASC）と中国航天科工集团公司（CASIC）に、ともに「動力技術研究院」という名前のついた組織を傘下に持っています。

名称	航天動力技術研究院	航天科工動力技術研究院
母体	航天科技集团公司（CASC）	航天科工集团公司（CASIC）
通称	航天科技第四研究院（四院）	航天科工第六研究院（六院） 河西化工機械公司
本部所在地	陝西省西安	内蒙古自治区フフホト
事業内容	固体ロケットエンジン	固体ロケットエンジン
創立時期	1962年	1962年

非常にまぎらわしい両者ですが、私は単に創立が1962年で固体ロケットエンジンを扱っているというだけで騒いでいるわけではありません。両者にはもっと深い因縁があります。調べてみたところ、興味深い情報がぞろぞろ出てきました。

2. ネット沿革情報

◆<百度百科>の航天科工六院情報

<p>中国航天科工集团第六研究院(又名中国河西化工机械公司)是我国第一个固体火箭发动机研制生产基地。1962年7月,国防部五院在四川泸州建立了我国第一个固体火箭发动机研究所;1964年4月,改称国防部第五研究院四分院;1965年1月,改称第七机械工业部第四研究院;同年北上,搬迁到内蒙古自治区呼和浩特市;1978年10月,改称内蒙古自治区第七工业局;1981年5月,改称第七机械工业部第四研究院驻内蒙指挥部;1999年7月,国防科技工业十大集团公司成立,内蒙基地改为中国航天科工集团第六研究院。</p>
<p>【大意】</p> <p>航天科工六院はわが国で最初の固体ロケットエンジン開発生産基地である。62年7月、国防部第五研究院（国防五院）は四川省瀘州にわが国で最初の固体ロケットエンジン研究所を設立。64年4月、国防五院第四分院に名称変更。65年1月、第七機械工業部第四研究院に改称。同年内蒙古自治区フフホトに移転。78年10月に内蒙古自治区第七工業局、81年5月に第七機械工業部第四研究院内蒙指挥部、99年7月、国防科工十大集团公司成立にともない、航天科工集团第六研究院となった。</p>

航天科工六院が国内最初の研究機構で62年7月の設立、一方の航天科技四院も62年創立、ということは、**ここ（四院）は国内第二号なのではないでしょうか？ それとも「第一号である航天科工六院」から分家したのでしょうか？**

◆ 航天科技四院サイトの記述

沿革についての記述は見当たりませんが、プロフィールとしてこんなことが書いてあります。

<p>航天动力技术研究院是我国目前规模最大、专业齐全、技术实力雄厚、设备配套完备、研制生产能力最强的固体发动机专业研究院。</p>
<p>【大意】 当研究院は現在わが国で最大規模にして、専門分野がすべてそろい、強力な技術力と万全の設備を誇る、最強の固体エンジン研究開発機構である。</p>

この「ウチが国内最大最強」という記事を次項のサイトでも見ることができます。

◆ 「从国防部五院到航天集团（国防部五院から航天集团へ）：中国航天院所發展史」

…2013年6月頃の『瞭望東方周刊』による。同月に複数のWebサイトが引用している。

<p>1965年，国防部五院四分院改称七机部第四研究院，并从四川泸州搬迁到内蒙古自治区呼和浩特。1978年起，这个单位先后改称内蒙古自治区第七工业局、七机部第四研究院驻内蒙古指挥部。</p> <p>1999年7月，国防科技工业十大集团公司成立，“内蒙古基地”改为中国航天科工集团第六研究院。</p> <p>“航天四院”，名称为“航天动力技术研究院”。它始建于1962年7月1日，是中国规模最大、实力最强的固体火箭发动机基础理论研究、设计、研制、生产和各种试验基地。</p>
<p>【大意】 1965年、国防部五院四分院は七機部第四研究院となり、四川瀘州から内蒙古フフホトへ移転。78年以降、内蒙古自治区第七工業局、七機部四院内蒙古指揮部に改称。 99年7月、国防科工十大集团公司成立に伴い、航天科工集团第六研究院となった。 航天四院は正式には「航天動力技術研究院」という。創立は62年7月1日、国内最大規模、実力最強の固体ロケットエンジンの理論研究・設計・開発・生産・試験基地である。</p>

「後の航天科工六院」の話の続きでいきなり「四院は最大最強」とおっしゃっています。はて、この「最大最強」とは航天科工六院の話ではなく、航天科技四院のことを言うのだろうか？（それなら前述の科技四院プロフィール記事とマッチする）しかし直前まで科工六院の話だった筈なのにヘンですね。かくして**航天科工六院・航天科技四院の関係について、我々日本の読者は混乱してしまう**わけです。（但し悩むのは我々だけで、現地の方は「正解」を知っているような気がします）

3. 理解のカギは「三線建設」

60年代の中国に「三線建設」という政策がありました。戦争に備えて工業基地を奥地に移転させることをいいます。

フフホトに移った七機部四院も「三線建設」に取り組みます。西安郊外の藍田県に「三線基地」（063基地）を建設、フフホトから何年もかけて移転を進めました。＜探訪歴史的063基地＞というネット記事のサワリ部分を引用します。

选择离开就意味着奔波。回头看看063基地的建设之路，可谓一波三折，几经辗转。这队人马首先来到西安，在当时的西安三所短暂停留后，于1962年5月迁至四川泸州地区。考虑到四川潮湿的气候不适合进行装药工作，不久后再次整体搬迁至内蒙古。由于中苏关系紧张，063基地1974年最终回到西安蓝田。留守在内蒙古地区的部分同志和设备就是日后航天科工六院的前身。一直到现在，航天科技集团四院和航天科工集团六院还有一个共同名字的单位：41所。

【大意】

さきほど「选择离开」（離れることを選ぶ）といったが、その結果は東奔西走であった。063基地建設への歩みを振り返ると、紆余曲折の末、各地を転々としたのであった。まずは西安に移り西安第三研究所の態を短い期間とったあと、1962年5月に四川瀘州地区へ移る。ところが四川の湿潤な気候は燃料を扱うのに不適當ということで、じき再度内蒙古に移転。**中ソ関係の緊張を背景に、063基地は最終的に1974年、西安藍田にたどり着いた。内蒙古に残った一部の同志・設備はのちの航天科工六院の前身となった。**それからこのかた、航天科技集团四院と航天科工集团六院には41所という共通の番号の組織が存在する。

なお藍田は西安市の南東郊外の地名。折角藍田に移った研究施設ですが、80年代には西安市内により近い灊橋区洪慶鎮田王という場所に再移転し、そこが現在の航天科技四院の所在地になっています。＜探訪歴史的063基地＞はつぎのように述べています。

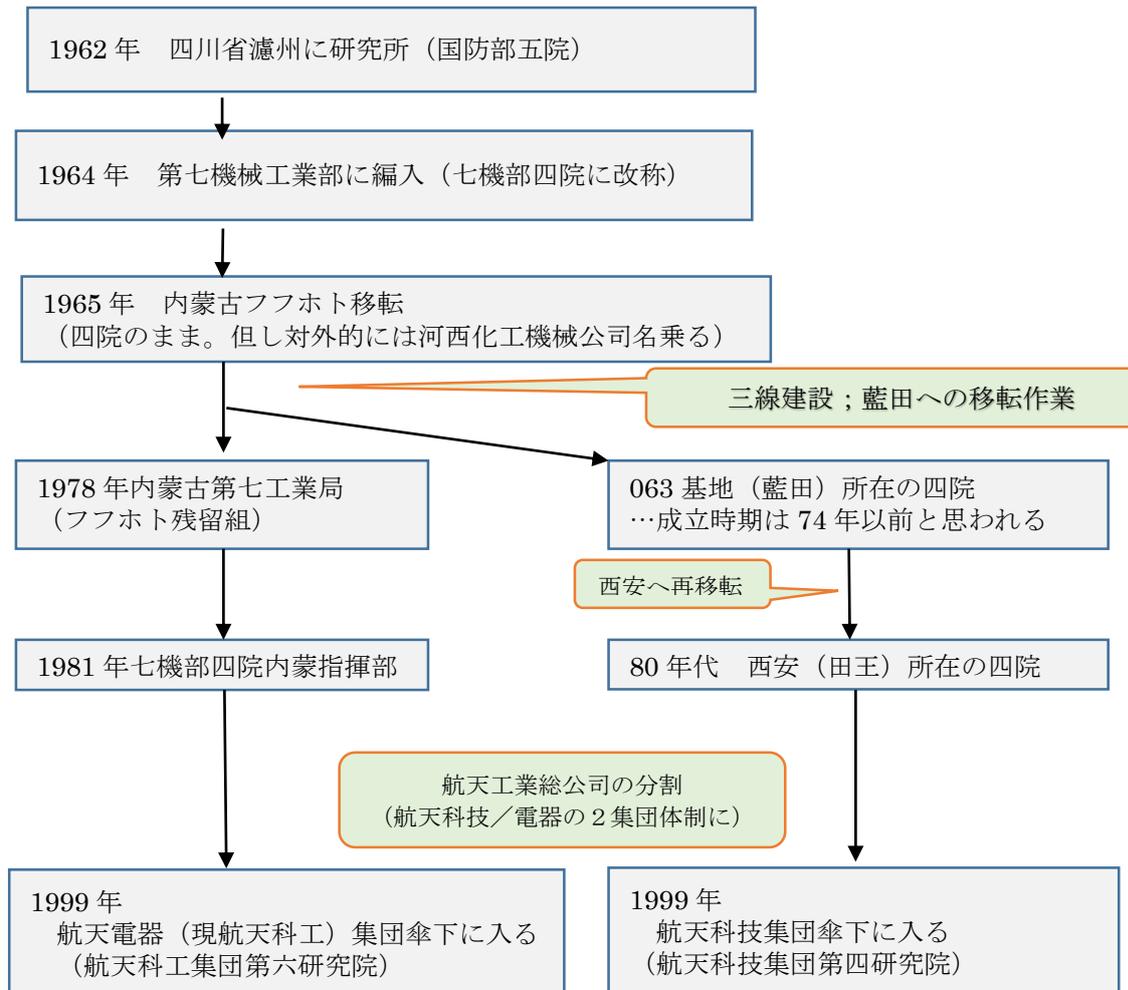
从上世纪80年代起，四院很多单位已经陆续从沟里搬进西安近郊田王。

【大意】

前世紀の80年代から、四院の多くの組織は次々に溝里（註；藍田県の地名）から西安近郊の田王へ移転していった。

4. 結論

つまり西安の航天科技集団四院は、フフホト航天科工集団六院の弟的存在だったわけです。但し「嫡子として家を継いだ」のは弟の西安／藍田組でした。その証拠に、四院の看板は一貫して西安／藍田組にかかっていたわけです。フフホト組は、兄的存在にもかかわらず、庶子（結城秀康？）のように、名字を変えられてしまっています。系図を作るとすればこんな感じでしょうか。



5. 雑学的知識

調査の過程で得た知識の中から2つ御紹介します。

◆傘下研究所の番号

各研究所の番号の頭の桁の数字は、母体である研究院が国防部五院傘下だった頃の分院番号（ややこしいことにこれが現在の研究院番号でもあることが多い）という傾向があります。（例外は沢山ありますが）

たとえば

- ・旧一分院の航天科技一院（運載火箭）傘下の10所、12所、14所…。
- ・旧二分院の航天科工二院（防御技術／長峰）傘下の23所、25所、203所…
- ・旧三分院の航天科工三院（飛航技術／海鷹）傘下の31所、33所、35所…。

ちょっと「例外」にも触れてみましょう。

- ・航天科技六院（推進技術／西安）傘下11所、165所、101所は？
…科技六院のルーツが旧一分院だったことと関係ありそうです。
- ・航天科技八院（上海）傘下の509所（衛星工程所）
…衛星関係だけに旧五分院とつながりがあるのではないかと思います。
- ・航天科技八院（上海）傘下の800所、802所、804所…。
…「八院」にちなんでいるのでしょう。
- ・航天科技一院傘下の「7で始まる」研究所；702所、703所
…旧第七機械工業部にちなんで番号をつけたものです。

（なお工場の番号「国営第XX廠」にはそのような規則性はありません。工場の場合は軍も核も航天もまぜこぜで通し番号がとられているためです）

さて本稿で取り上げた2つの研究院はどうかというと

航天科技四院（西安）傘下の41所、42所、43所、44所、47所、401所

航天科工六院（フフホト）傘下の41所、46所、601所、602所

航天科技四院（西安）傘下の研究所は、「原則」通り「4で始まる」。航天科工六院（フフホト）傘下の方は「6で始まる」と「4で始まる」が混在。

航天科工六院が元は第四研究院だったことからすれば、自然なことと考えてよいでしょう。

◆41所（第41研究所）も2つあった

3頁で「41所という共通の番号の組織が存在する」という記事を紹介しました。これについて「どういう意味か？」といぶかる方も多いと思います。

現に米国<2049研究所>レポートも悩んでいます。41研究所は「航天科技（CASC）四院、航天科工（CASIC）六院のどちらの下部機関なのだろう？」と。（詳しくは次頁）

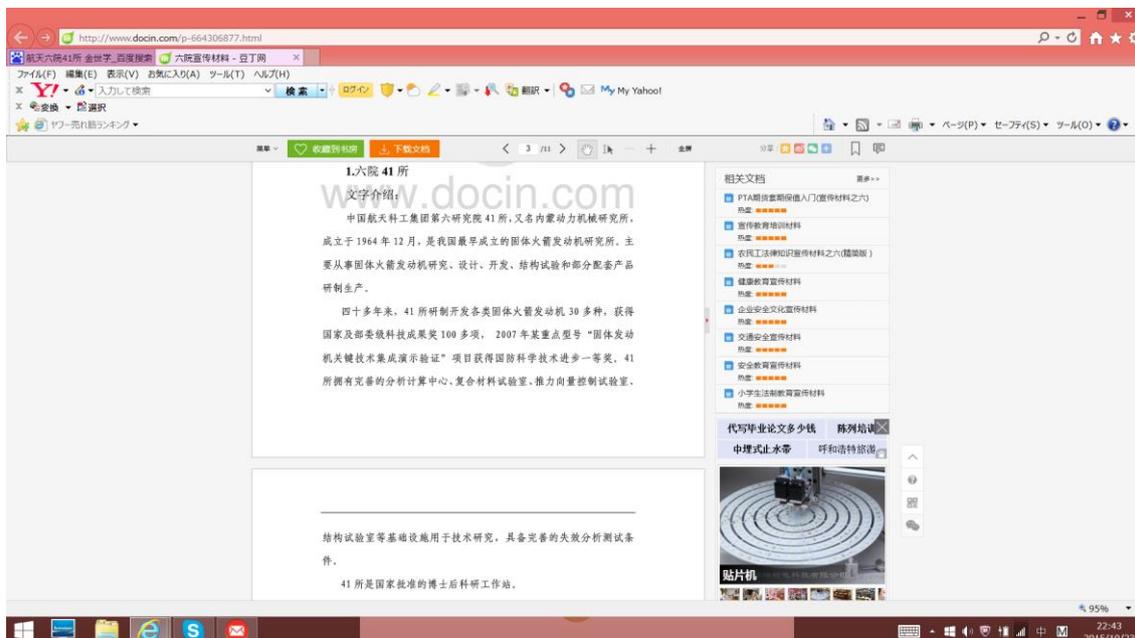
“China’s Evolving Reconnaissance-Strike Capabilities” 航天科工六院関係の記事

<p>41st Research Institute (41 所)</p>	<p>The 41st Research Institute serves as the Sixth Academy’s main solid motor design department and has a close working relationship with the Northwest Polytechnical University in Xian. Having long been China’s primary design house for solid motors, there are conflicting reports as to its subordination. Some refer to the 41st RI as under the CASC Fourth Academy and others under CASIC Sixth Academy. One possibility is that the CASC Fourth Academy established an R&D center and assigned personnel from the 41st RI, then resubordinated the remaining assets of the 41st RI to CASIC. Among its many projects include a hybrid solid-liquid propulsion system for a microsatellite that was first tested in July 2007.</p> <p>Also designs wind power engines. Its offices are numbered 101 through at least 108. In 2007, the institute director was Jin Shixue. (金世学)</p>
--	--

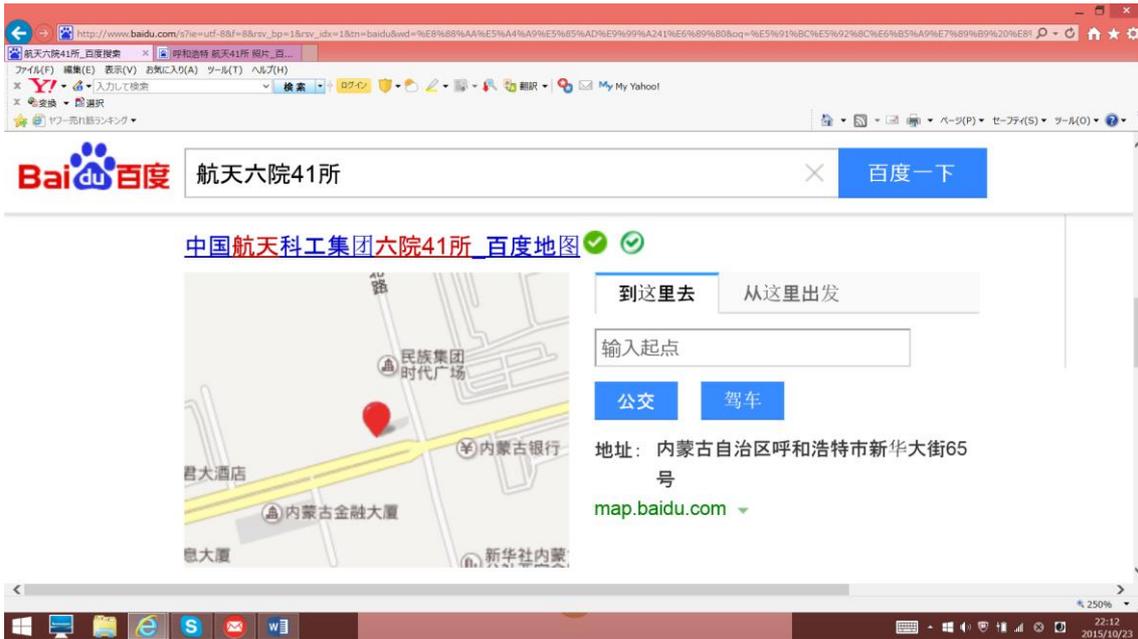
(http://project2049.net/documents/chinese_anti_ship_ballistic_missile_asbm.pdf)

しかし「航天科技 (CASC) 四院傘下の 41 所」と「航天科工 (CASIC) 六院傘下の 41 所」が別々に存在していたらどうでしょう？ 一気に謎が解けるのではないのでしょうか？

まずは「航天科工 (CASIC) 六院傘下の 41 所」の存在を確認しましょう。この研究所は下記の通り、別名を内蒙動力機械研究所といいます。



次頁の地図を見ればフフホトに立地することが確認できます。



ついで「航天科技（CASC）四院傘下の41所」です。この研究所は別名を西安航天動力研究所といいます。Webサイト (<http://www.casc11.com/>) から、西安に立地することが見て取れるページを抜粋しました。

西安航天 力研究所
 地址：西省西安市航天基地 天路289号
 通：西安市15号信箱11分箱
 网址：
 箱：contact@casc11.com
 招聘招生 箱：zhaopin@casc11.com
 系
 合事：029-85207364 85602262
 宇航品：029-85207366029-85207366
 民用品：029-85207549 15029935566 13072952058
 招聘招生：029-85207403029-85207403
 真：029-85207401029-85207401
 : 710100

概况 | 企业文化 | 位新 | 科研 | 力 | 技 | 与 | 品 | 招聘招生 | 系我 | English

Copyright ? 2015 西安航天 力研究所 All Rights Reserved. 版权所有
ICP 12011645号 技 支持：百通互

<2049 研究所>は両者を混同してしまったのだと思います。